

2020年3月実績概要(メモ)

(2020. 4. 23)

(2020. 5. 11更新)

春の定期修理入りと稼働率要因からエチレンをはじめ各誘導品の生産は大幅な減産となる。

1. 生産動向

イ) エチレン 453,600トン

前月比 ▲13.2% (▲69,100トン)

前年同月比 ▲19.3% (▲108,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 6.9 %	-
定修要因等	▲13.0 %	▲12.7 %
能力増減	-	+ 0.1 %
稼働率変動	▲7.1 %	▲6.7 %
生産増減率	▲13.2 %	▲19.3 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.0% → 当月88.7% ← 前年同月95.1%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月なし

令和元年度(会計年度)生産量 6,282.3千トン 前年度比 +1.6%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加があったが、定修規模差と稼働率要因からLD、HD、PP、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの15品目でマイナス。PS、MMAモノマーの2品目のみは日数増と稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因等からLD、HD、PP、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの16品目がマイナス。PSのみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数の増加に対して、春の定修入りに伴う定修規模の増加と並んで稼働率要因からLD、HD、PPはマイナス。PSは前月の生産がやや低めであったが、当月は日数増と稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、LD、HD、PPの3樹脂は、定修規模の増加と稼働率要因等からマイナス。PSは、稼働率要因から微増となった。

ロ) 国内出荷

前月比は、LD、HD、PPの3樹脂では、ユーザー側の稼働日数の増加や生産減に伴う在庫の払い出し対応もあり、プラスとなった。PSは、ほぼ全分野で出荷量が増加しプラスとなった。

前年比は、新型コロナウイルスの感染拡大から、個人消費が弱含む側面がみられはじめたほか、産業分野での国内外の工場停止の動きもあり、PEではフィルム分野を中心とした出荷減少からマイナス、PPは、射出成形分野や押出成形分野の出荷が減少しマイナスとなった。他方、PSでは、包装分野、雑貨・産業資材向けを中心とした出荷量の増加からプラスとなった。

ハ) 輸出

前月比は、期末要因もあり、ポリオレフィン3樹脂では大幅に増加し、昨年後半レベルの輸出量に戻った。

前年比では、前年の輸出量がやや多めの水準にあったこともあり、LD、HD、PP、PSでマイナス若しくは微減となった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PPで減少、PSはやや増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してHD、PPで低下、LD、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、PSは高め、HD、PPはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LD	▲23,600	3.6	3.6
HD	▲19,900	3.7	3.1
PP	▲24,900	3.1	3.0
PS	+4,000	1.7	1.7